

令和6年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画	
学 校 運 営 方 針	豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。
三つの方針(スクール・ポリシー)	
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①協働して「叡智」を磨くため、学習と部活動を両立させることで、知性と品格を高める心構えを育成します。 ②国際的な視野に立ち、様々な価値観を受け入れる寛容な精神を持つためのコミュニケーション力を育成します。 ③身につけた知識、技能を活用し、情報を収集、分析し、地域を担うリーダーとして貢献する姿勢を育成します。 ④将来が予測不可能な社会の中で、自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決していこうとする姿勢を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	【各学科共通】 ①部活動や探究活動、学校行事を充実させることで、生徒が主体的に多様な価値観に触れる機会を多く設けます。 ②総合的な探究の時間に、大学等の外部機関と連携するなど、課題を解決する方策を探る活動を実践します。 ③授業中にグループワークやプレゼンテーションなど協働した学習を行い、生徒一人一人の進路実現を目指します。 【普通科】 ④I C T機器を活用した教育活動で、主体的、対話的で深い学びを実践し、課題解決能力を育成します。 【食物科】 ④調理師免許取得に向けて、専門科目を学び、調理実習や試食会、食物調理技術検定1級の取得を行います。 ⑤集団調理実習や外部講師の活用を通して実践力を養い、小学校給食実習やコンテストに積極的に取り組みます。 【音楽科】 ④一人一人の個性や長所を伸ばすために、専門家によるきめ細かなマンツーマンレッスンをを行います。 ⑤「合唱・合奏」「重唱・重奏」などのアンサンブルの授業を通し、主体的、対話的で深い学びを実践します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	【各学科共通】 ①身のまわりの問題に関心を持ち、学業、部活動等に意欲的に取り組み、仲間と共に粘り強く努力する生徒 ②自分の考えや思いを誠実に表現するとともに、異なる立場、他者からの多様な意見にも真摯に耳を傾ける生徒 ③主体的に行動することができ、率先してリーダーになる気概を持ち、他者のために進んで働くことができる生徒 ④身近な社会の課題を積極的に見つけようとする姿勢を持ち、解決に向け主体的に活動することのできる生徒 【食物科】 ⑤食の分野に関する興味関心が高く、自己成長に励み、調理師免許取得に向けて積極的に学習に取り組む生徒 【音楽科】 ⑤音楽が好きで日頃より技術・表現力を磨き、仲間と共に、3年間さらなる向上を目指して学ぶ意思を持つ生徒

昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
【成果】生徒、保護者、職員へのアンケートを実施し、学校運営の改善につなげた。また、生徒の規範や安全・人権に対する意識を高める取組を行い、成果を上げた。教育相談体制についても、より一層の充実を図った。 【課題】アンケート結果や意見を踏まえ、教育活動の充実に取り組む。進路希望実現に向け、生徒の学力向上と特色ある教育活動を一層推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう、教育相談体制のさらなる充実を図るとともに、学校全体で支援体制も構築する。		生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成		
		校内外の研修会への参加や自己研鑽により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚		
		生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導		
		総合的な探究の時間等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分な課題を発見し解決していく力を養う。	土曜活用・模擬試験・講演会・体験入学・進路情報等の充実・大学入学共通テスト受験奨励、探究学習発表会・食物科の試食会・音楽科の演奏会等の充実、活発な部活動		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
学校経営	安全・安心な学校づくり	各学科、コース、学年及び分掌の取組を関連させ、その目的の達成を目指す。		B	B
	進路希望の達成	各学科、コース、学年の特色ある取組の強みを生かし、関連する分掌と連携し、その目的の達成を目指す。		B	
	組織的な学校運営	運営委員会を週1回開催し、各学科、コース、学年及び分掌の取組を関連させ、その目的の達成を目指す。		B	
1 学年	家庭学習習慣の定着	面談や朝学習を通して毎日の家庭学習の重要性を実感させ、毎日の家庭学習時間を確保している生徒が80%以上となるように日頃から助言していく。		B	A
	基礎学力の定着	家庭学習の成果としてスタディーサポート・進研模試を位置づけ、結果として国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上となるよう指導する。		A	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度当初に部活動への積極的な参加を促すとともに、生徒会と連携し学校行事の充実を図り、年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上となるように取り組む。		A	
2 学年	家庭学習習慣の定着	進路目標を明確にさせ、家庭学習の重要性を意識させることを通して、家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上になるように指導・助言をしていく。		C	B
	基礎学力の定着	定期テストや模擬試験の結果を分析し、その結果を授業にフィードバックすることなどを通して、11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上になるよう、指導内容の精選・改善を行っていく。		B	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年間を通して、学校行事や部活動で生徒が充実感・達成感を覚えられよう助力し、年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上になるよう、指導内容や指導方法を検討していく。		A	

3 学年	学力の伸長	模試のGTZのB2以上の割合で、2 年 2 月進研マーク模試から 3 年11 月ベネ駿模試にかけて10%アップとなるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B	B	B
		生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を 60%以上となるよう、指導内容の精選・改善を行っていく。	B		
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B	B	
		生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B		
	進路希望の達成	大学進学における合格者を国公立40人以上、難関大合格者 1 名以上となるよう、指導内容と指導方法を検討していく。	A	B	
		就職希望者の100%が内定者となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B		
普通科および普通科学究コースを合わせた大学入学共通テスト出願率80%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。		B			
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。。	B	B	B
		2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、56以上が30%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。。	B		
		1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が15%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B	B	
		2学年：週20時間以上の家庭学習を行う生徒が70%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B		
		1学年：週20時間以上の家庭学習を行う生徒が60%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	B		
国語科	授業力の向上	年間を通して全員が授業公開を行い、意見交換をする。生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上を達成したかを確認する。	B	A	A
	学力の伸長（1 学年）	定期テストや小テストを実施する中で、習熟度を見極め指導に活かしていく。1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が30%以上、学究50以上が50%以上（昨年度36%、50%）であるかを基準として指導内容、方法を検討していく。	B		
	学力の伸長（2 学年）	定期テストや模試の結果を分析し、必要な指導を見極めていく。2 月ベネッセ共通模試「国語」で偏差値普通科50以上が40%以上、学究56以上が40%以上（昨年度44%、36%）であるかを基準として指導内容、方法を検討していく。	A		
	学力の伸長（3 学年）	各種テスト、模試に加えて、問題演習の機会を多く設け、受験に向けての実戦的な力も高めていく。大学入学共通テスト「国語」で、平均点以上の割合が「国語」受験者の33%以上（昨年度31%）、学究平均点が全国平均点以上（昨年度－8.2点）を達成できるように昨年度の指導内容を改善していく。	A		
地理歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	B	B	B
	学力の伸長	授業公開や意見交換、校内研修等を行って、授業力を向上させることを通じ、共通テストにも対応できる生徒の学力伸長を目指す。	B		

数学科	学力の伸長	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上となるように授業改善を図る。	A	A
	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	A	
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	B	B
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上となるように授業改善を図る。	A	
	新学習指導要領への対応	観点別評価に基づいた、授業改善の取り組みを進める。	B	
保健体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	B	A
	基礎体力の向上	体づくり運動や持久力・筋力トレーニングでタブレット端末などを有効活用し、より積極的な意欲を引き出し、基礎体力の向上を目指す。体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。（2.3年次は前年度との比較も行う）。	A	
英語科	授業力の向上	教員全員が授業を公開し、意見を交換することによって、授業の改善を図る。また、生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上になるよう、各教員が創意工夫を重ねる。	A	B
		各学年が五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くこと）の技能の向上を目指し、日々の授業を行う。また、定期考査、小テスト、模擬試験の実施や振り返りをとおして、学力の伸長を図る。また、外部試験の具体的な数値目標を以下のように設定する。 1学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上が1割以上。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上が3割以上・CEFR-JがA2.2以上が4割以上 3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を3割以上が取得。CEFR-JでA2.2レベル以上が4割以上。	B	
食物科・家庭	専門調理技術の習得	調理師免許取得にかかわる専門科目の学習を通して、調理技術を習得させる。調理技術向上のため、食物調理技術検定1級の取得を目指す。	A	A
	食の総合的実践への取り組み	調理実習や集団給食実習、外部講師の活用を通して実践力を養い、校内試食会や小学校給食実習を実施する。	A	
	生活技術の向上	家庭基礎・家庭総合で実践的・体験的な学習活動を通して、生活を営むために必要な技術の向上を目指す。	B	
音楽科・芸術	豊かな音楽性の醸成	特別講座や公開レッスンなどをとおして、音楽を多角的に考察し、自身の音楽観を広げることを目指す。	A	A
	音楽をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることを目指す。	B	
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が85%となるよう、指導内容や指導方法を検討していく。	A	

情報科	情報活用技術の向上	P検 3 級（510文字以上）相当のタイピングスキルの向上を目指す。日常生活における問題に着目し、情報機器を活用しながら問題解決に繋げるための過程を学習活動に取り入れていく。	A	A
	情報モラルの向上	具体的な事例を取り扱い、危険に遭遇したときの対処方法を学習し、どのような心構えと態度で接すればいいのかを考えていくことを目指す。	A	
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりよい授業実践のため、授業公開月間を年1回設定し、年間をと おして全員が授業公開を行う。 また、研修会を行い、授業改善のための意見交換を行う。	B	B
	基礎学力の向上	全員が授業に関する生徒アンケートを実施する。（よくあてはまる ＋ややあてはまるの割合） 『興味・関心、学ぶ意欲が高まる』（80%以上）『説明が分かりやす く、内容がよく理解できる』（80%以上）『授業の進め方に工夫がさ れていると感じる』（80%以上）『予習・復習などをしっかり行い、 理解が深まるように努めている』（70%以上）『自分の学力が伸びて いると実感出来ている』（70%以上） 上記を目安として、生徒に学力の伸長を感じさせられるような授業 改善を図る。	B	
生徒指導	校則に基づき、 服装・頭髪等の 指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検査を行い、各回の重大な校則違 反者（染髪等）を各学年6人以下とする。違反者の頭髪服装を修正 させる。	B	A
	交通安全指導及 び各種周知等を 充実させる	交通安全について継続的に指導し、昨年度から交通事故件数を減ら す。相談機関紹介や長期休業中の心得等を定期的に発出し、生徒の 校内・校外の生活を充実させる。	A	
	安心・安全な環 境で共感的な人 間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して継続的かつ段階的に指導する。ま たいじめアンケート等を活用し、人間関係トラブルを未然に防ぎ、 トラブルが起こった場合は迅速に委員会を開催し解決に努める。	A	
進路指導	進路に関する有 効な情報提供	学年集会等で進路講話を行うとともに、進路の手引きや進路通信、 その他の配付物・刊行物を用いて生徒に情報提供し、活用を促す。	B	B
		生徒および保護者のアンケートで、『学年集会や進路通信等の配付 により進路や学習等に関する情報を有効に活用』『よくあてはまる 』『まあまああてはまる』合わせて70%以上を目安とする。	B	
	進路目標の達成	1・2年生については、11月進研模試の結果で国数英の平均学習到 達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%を目安として、生徒の学力 伸長、および実践力の養成を図る。	B	B
		3年生については、国公立大学合格者40人以上、難関大学合格者1 名以上を目安として、生徒の進路希望達成に向けた授業改善や補 習、模擬試験の活用、面談等を行う。	A	
		大学入学共通テストの出願について、普通科と普通科学究コースを 合わせて80%を目安に、情報提供や出願指導を行う。	B	
		就職希望者の100%の希望達成のために必要な指導を行う。	B	
保健環境	学習環境の整備 を積極的に推進 する態度の育成	普段の清掃活動を通して環境整備を積極的に推進する態度を育成す る。生徒アンケートで「普段の清掃はまじめに取り組んだ」の回答 が80%以上となるよう努める。	A	A
	心身の健康問題 の早期発見・対 応による重症化 防止	生徒の心身の健康問題を早期発見・対応するため関係職員と連携し ながら相談活動をする。その結果、生徒アンケートで「先生方は悩 みを十分聴いてくれた」「どちらかといえば聴いてくれた」の回答 が80%以上となるよう努める。	A	
		日常の相談活動、関係職員との連携により保健室頻回来室者（年10 回以上）を50人以下となるよう努める。	B	

生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する	どのような役割を果たし、どのような活動をしたらいいかを考えながら、協働して行事に参加することを目指す。	B	A
	学校行事が充実している	充実した学校行事に向けて、主体的に課題が解決できるように指導する。	A	
	生徒会執行部のリーダーを育成する	全校生徒から理解と協力を得られるリーダーを育成する。	A	
図書視聴覚情報	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報を提供する	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%となるよう情報提供に努める。	B	A
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%となるよう運用していく。	A	
	情報関連機器の維持、管理とともに操作法などをサポートする。また、日常の教育活動を積極的に情報発信する。	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%となるよう情報提供に努める。	A	
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	PTA総会や保護者対象進路講演会等、PTA主催の学校行事に保護者の25%以上が参加するよう情報発信に努める。	B	A
	中央グッズの企画販売	学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただくよう努める。	A	
人権教育 同和教育 男女平等 教育推進	人権教育、同和教育、男女平等教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育、男女平等教育についての全職員の共通理解を深める。	B	B
		職員アンケートを実施し「研修会報告によって理解が深まった」との回答が80±5%となるよう情報の共有に努める。	B	
	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。	A	
		生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が80±5%となるよう情報の共有に努める。	B	
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解 個別の指導計画の作成と個別指導	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有する。指導に関わった職員にアンケートを行い、「情報共有が生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする割合が75%以上になるよう努める。	A	A
		支援が必要な生徒に対して、担任・学年主任・養護教諭・コーディネーター・スクールカウンセラー・管理職等と情報共有しながら、指導方針を決め組織的に対応する。また必要に応じて個別の指導計	A	

		画を作成し同じく組織的に対応する。		
成果		生徒の進路実現にむけて、生徒の学力向上や特色ある教育活動を推進して成果を上げた。次年度も、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。 また、職員研修を行い、授業改善・生徒指導・人権に関する意識を高めることにつなげた。いじめ問題に対しては、全職員の共通理解のもと、組織的な対応ができた。 スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実に取り組んだ。今後も生徒が心身ともに健康な生活を送ることができるよう組織的な対応を継続する。	総合評価	
			B	